

# 人口減少



昨年末、近くにあったスーパーマーケットが店を閉め、新しくイオン系の店になりました。オープン当時は従来の有人レジが一箇所のみで、セルフレジがずらりと並んでいました。今まで働いていたレジのおばちゃん達は失業したのでしょうか。しかし、来店するたびに従来の有人レジが増設されています。店内では、「セルフレジが空いています」と何回も放送されていますが、有人レジには列ができています。新しいものに抵抗がある人が多い地域性なのかも知れません。セルフレジは人件費の節約の他に、現在進行している人口減少による労働力不足を補う手段になるでしょう。これから日本は人口減少を AI や5Gの技術を使い、屈指して対処していくのでしょうか。

先日、中国国家統計局が当国の人口が61年ぶりに減少したと発表したニュースが流れました。前年より85万人の減少だそうです。しかも国家統計局が予想していたよりも18年も早く減少が訪れたとの事。コロナに加え、「一人っ子政策」を行ったことで、若い男女の人口比率が男性の方が不自然に多くなり、結婚できない男性が多く存在します。それに加え、若者の就職難、住宅価格の高騰が結婚を妨げています。中国

では男性が新居を用意して妻を迎えるという習慣が残っているためです。人口を急に増やすことは困難で深刻です。

昔の話として聞いてください。左の絵は江戸時代初期に描かれ、実際絵解きに使われていた「地獄図」の一部です。「不産女(うまづめ)地獄」という女性だけが落ちる地獄です。生前に子供を産めなかった人、もしくは一人しか産まなかった人の地獄です。二人産まないで人口が維持できなかったからでしょう。現在からしてみれば人権の欠片もない酷い考え方です。江戸時代の産業は、ほとんどが人力でしたので、人口減少は現代より深刻な問題であったことが想像されます。これを熊野比丘尼(くまのびくに・修験者の妻で熊野詣での観光PRを全国で行っていた女性)が縁日などで女性を集めて「子供を二人以上産んでくださいね」などと絵解きをしていたのでしょうか。



ちなみに、男性が落ちる地獄も用意されています。見ての通り、不倫をした人が落ちる「両婦地獄」。苦しそうですね。お次は「刀葉林(とうようりん)地獄」。



スーカーをした人の地獄です。美女に会いたくて、葉が刃物でできた大木を血だらけになって登らされる地獄です。当時も、スーカーはいたのですね。どの地獄も現代と共通する問題を抱えていたことに大変興味をそそられます。

俊徳丸